

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



いよいよ夏の甲子園の季節。長いコロナ禍を抜けて、今年こそ選手の手皆さん、応援団の皆さんが埋不盡な思いをせず思い切り青春を謳歌(おつか)してほしいと願っています。

この選手もかつて甲子園で汗と涙を流したはず。名門・鹿児島実業で1年生の秋から4番打者。高校通算29本塁打という好成績を残し2014年にドラフト2位で阪神に入団した横田慎太郎さんが、7月18日に神戸市内の病院で亡くなりました。死因は脳腫瘍。28歳の若さでした。

横田さんが体調に異変を感じたのは、17年2月頃。バッティングの練習中、ボールが二重に見え思い通りにバットに当たらなくなりました。病院に検査に行くと、医師からは思わぬ言葉が。

「脳腫瘍です。一日野球のことは忘れてください」

315 プロ野球阪神元選手 横田慎太郎



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けったいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

頭が真っ白になったといいます。しかし再びグラウンドに立つことを決意し、2カ月に2度の手術と放射線治療に向き合いました。

脳腫瘍は、頭蓋骨内にはいる腫瘍の総称です。細かく109種類に分類されますが、大きくは良性と悪性に分類されます。悪性脳腫瘍とは、すなわち脳のがんのこと

と。主な症状として頭痛、嘔吐(おつか)、視力異常の3つが挙げられますが、その他にも腫瘍が脳内のどこにできるかによって、さまざまな症状が現れます。小児から高齢者まですべての年齢で発生するのもこの腫瘍の特徴です。僕も、横田さんと同じ20代で脳腫瘍が見つかった人を、これまで数例看取ってきました。

横田さんは苦しい闘病の甲斐あって、その年の9月には寛解。復帰を目指しリハビリを頑張りますが、視力が元に戻らずに19年9月に現役を引退しました。

どんなに無念だったことでしょう。しかし横田さんは決して人生

を投げ出すことはなかった。阪退団後は、「誰の手も借りずに人で生活することに挑戦したい」と鹿児島県内で一人暮らしを始。ご自身の経験をもとに、執やオンラインで講演活動を始めます。

20年には脊髄に腫瘍の転移が明。懸命な治療を続けた結果、年後には、腫瘍は消滅。「今回たくさんの方に支えられ2度目を頂きました。これからは世の中の人のお役に立つと心に誓いました」と述べています。

しかし昨年、腫瘍がまた再発しました。この春には積極的な治療を終えて、ご両親のサポートのと療養生活に入っていたそうです。

横田さんは昨年、南日本新聞「くじけな」というタイトルコラムを執筆。そこには、「神は乗り越えられない試練は与えい」という言葉を噛み締めてる、と書かれています。豊かな人生とは、長さではなくて、何乗り越えたのか——横田さんのいが、そう教えてくれます。

豊かな人生の意味教える闘い